

# 入居者への付帯サービスとして導入

## 月々のランニングコストは5万円

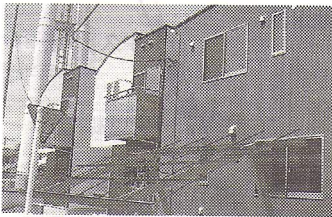
入居者への付帯サービスとしてカーシェアリング導入を決めたのは高塚文彦オーナー（埼玉県久喜市）。



高塚文彦オーナー(45)  
(埼玉県久喜市)

入居者への付帯サービスとしてカーシェアリング導入を決めたのは高塚文彦オーナー（埼玉県久喜市）。システム提供を手がけるサージュ（神奈川県横浜市）とマツダグループが共同開発した「CS・DEMIO」を採用し、運営はJOYCA（大阪府大阪市）が担当。ステーションを設置するのは、3LDK戸建て賃貸の敷地内。すでに2棟は4月から稼働中だが、残りの5棟が9月に竣工。「収益性ではなく、物件の差別化をはかるため導入を決めました」と高塚オーナーは話す。周辺住民などの一般には開放せず、物件入居者のみを対象にサービスを提供。郊外に位置する同物件には、車を保有したファミリーの入居者が見込まれるが、「カーシェアリングの利用ニーズは十分に考えられます」と高塚オーナー。

また、もともと2台を所有する入居者が、カーシェアリングのサービスがあることで1台を売却し維持費を削減したい場合にも寄与する。

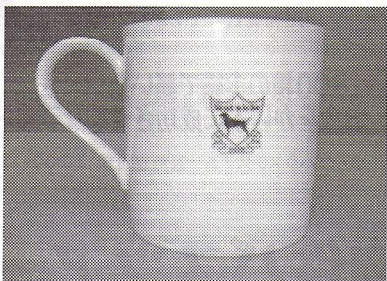


▲建設中のカーステーション

カーシェアリング導入による月々のランニングコストは5万円ほど。内訳は、車両のリース料が3万5000円と利用予約などのシステム使用料が約1万5000円。車両のメンテナンスなどは運営業者が行う。「入居者同士が車に乗り合わせて買い物に行くなどコミュニティ構築の手段としても有効です」（高塚オーナー）

感謝の気持ちを込め  
入退去時にプレゼント

◆入退去時に犬のロゴ入りマグカップをそれぞれ1つずつ入居者にプレゼントする高塚文彦オーナー（埼玉県久喜市）。ペット共生物件の賃貸経営を手がける高塚オーナーが入居の記念として考案した商品だ。「入退去時に感謝の気持ちを込めてさし上げています。退去時にベアが完成して入居者には好評です」と高塚オーナーは笑顔で話す。



▶ロゴ入りのマグカップ